

第 7 回 長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会

1. 開会

○事務局より開会の挨拶

2. 挨拶

○川原土木部長より挨拶

3. 報告

○15 人中 11 人が出席しており、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告

○配布資料の確認

○委員長が会議録の署名人として渡辺副委員長、岩本委員を指名

○渡辺副委員長、岩本委員が承諾

スポーツ施設の再配置について

○「資料 1」について事務局から説明

○質疑応答

【委員】

- ・400m トラックについて、資料 1 の 1 ページに「陸上専用ではなく、多目的に利用できる広場空間にする必要がある」と書いてあるが、具体的にどのような利用を考えているのか。また、多目的に関して、市民総合プールの建屋自体を多目的な利用とすることが議題になったが、その件に関して触れられていない。

【事務局】

- ・多目的な利用について、まだどのような活用をするのか決まっていない。陸上専用ではなく周りに様々な施設があるため、相乗効果を生むような利用を考えていく。

【委員】

- ・新聞やテレビにおいて、被爆者団体などに説明し、理解が得られていないと報道されているが、長崎市として、パターン 4 のスポーツ施設の再配置で決定している理解でよいのか。

【事務局】

- ・ご指摘のように被爆者団体からの意見もあるため、丁寧に検討することには変わらない。

- ・スポーツ施設の再配置では、11月の議会にて資料1の1ページの4つの理由からパターン4が適当であることを示した。次のステップにおいて、市民総合プールを整備するにあたり平和への配慮の事例を示すなど、被爆者団体とも意見を重ねながら配慮する。
- ・今回の会議の開催前にも、平和への配慮についての案を被爆者団体に説明している。

【委員】

- ・議会での反応やどのような結果になったかを教えてほしい。

【事務局】

- ・「松山陸上競技場の現在地存続を求める請願」は、11月議会では不採択となったが、今後、理解が得られるような対応と、市民に理解を得られ、平和公園（西地区）が良くなるような整備を進めていきたい。

4.議事

(1) 平和公園(西地区)の基本方針及びゾーニングとゾーン別整備方針

○「資料2」について事務局から説明

○質疑応答

【委員】

- ・平和に関する言葉の使い方と資料1の神戸の事例について意見がある。
- ・資料2—2ページの西地区の基本方針（案）にて、基本方針①は「多様なニーズに応じた、スポーツやイベント等を通じ、平和を発信する空間」、基本方針②は「市民に身近で、平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成」と記載されているが、この違いが分らない。
- ・各ゾーンにおける基本方針（案）の対応表の①「平和を発信するスポーツ環境の創出」でCゾーンに印がついていない。また、②「平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成」は◎ではないため、整合性がないように感じる。
- ・Cゾーンは、平和の発信機能か平和の尊さを感じられる空間のどちらに入るのか。神戸の事例は被災の継承のような空間であるため、平和に関する言葉遣いを考えないと被爆者団体に説明する際に具体的なものが見えない。
- ・浦上川は、水を求めて多くの方が亡くなられているため、浦上川沿いに祈りができるような空間の整備をお願いしたが、平和に関する言葉が曖昧で、「スポーツやイベントを通じて平和を発信」という空間なのか、何かを整備するのか分からないところがある。

【事務局】

- ・ご指摘のように、Cゾーンに「平和を感じられる空間」と出しながら、対応表に◎でなく○をつけているところがある。再度、関連性や言葉の使い方を整理する。
- ・基本方針①及び②について、平和に関する感じ方を表現することが難しく、基本方針①は

- 「平和だからスポーツができる」視点から、直接的に平和に関係する空間をつくることより、何かを自由にできることが平和を感じられると整理している。
- ・基本方針②は、スポーツだけでなく日常的に利用できる芝生広場や集う場所として、日々自由にふれあうことができる。

【委員】

- ・様々なゾーンがあるが、Dゾーンの中に市民総合プールを建設すると、GゾーンやFゾーンがブロックされるが、防犯面の対策についてどのような考えをしているのか。

【事務局】

- ・防犯面について、次の整備段階で配慮しながら方針を考えていく必要がある。

【委員】

- ・資料 2—2 ページの上位計画・関連計画について、「長崎都心まちづくり構想」が抜けている。また、「長崎まちづくりグランドデザイン」も検討しているため、策定が間に合えば記載する形になると思う。
- ・資料 2—3 ページについて、Cゾーンの整備方針に「平和発信機能の導入検討」とあるが、神戸のようなメモリアル的なものをつくり被爆伝承をするのか、スポーツができることが平和という捉え方で全体的な雰囲気伝えるのか2つの視点がある。
- ・資料 2—3 ページのゾーニングでは、Dゾーンの整備方針に「緑陰にあふれ」と記載されているが、市民総合プールができると緑や自然を感じられる割合がどれくらい残るのかゾーニングだと分かりにくいところがあるため、整理できるとよい。
- ・検討委員会の大きな流れとして、第7回検討委員会で議論して次回があるのか、今回が終わり最終報告書に向かうのか、具体的に議論する余地があるのか確認したい。

【事務局】

- ・上位計画・関連計画に関するご指摘は承った。
- ・具体的な配置等は、資料 3 及び資料 4 に記載している。
- ・今後の進め方は、次の議論にある平面配置イメージ図や基本方針等をまとめた平和公園（西地区）再整備基本計画案とイメージパースを今年度末にまとめたいと考えている。

【委員】

- ・資料 2—2 ページの西地区の基本方針（案）「③長崎の新たな玄関口としての機能強化」とあるが、具体的にどのような機能強化を考えているのか。
- ・長崎南北幹線道路が整備されると、市民だけでなく国内外から来訪もあるため円滑な移動をどのように形成するのか、案内や誘導を考えているのか説明してほしい。

【事務局】

- ・「③長崎の新たな玄関口としての機能強化」は、長崎南北幹線道路が整備されることにより、様々な人の流れが生まれ、平和公園（西地区）が良くなるという意味合いのものである。資料には示していないが、平和公園（西地区）再整備基本計画全体のまとめの中で、歩行者など動線計画を整理している。
- ・特に、平和公園（西地区）のCゾーンは、東地区との連携や東地区から西地区に誘導する空間、旧城山国民学校などをつなげていけるような空間づくりを考えている。

(2) スポーツ施設再配置計画

(3) 平面配置イメージ図

○「資料3」「資料4」について事務局から説明

○質疑応答

【委員】

- ・資料4を今日確認し、補助線の引き直しをした方がよいと思い至った。検討委員会の当初は、陸上競技場を存置するのかどうかの議論がメインだったため、Dゾーンを分割しないで議論をしてきた。Dゾーンに市民総合プールをつくり直すことで、その余剰地に新たな広場が整備すると、Cゾーンの扱いが手狭な感じがする。
- ・Dゾーンに市民総合プールを整備するのであれば、Dゾーンの広場とCゾーンを本来のCゾーンとして、平和を感じる施設にすることが考えられる。
- ・資料2―3ページについて、ここまでの議論を尽くしてきた結果として、平和を感じるだけでなく、東地区は被爆から80年が経過し、平和を希求し続けた皆様の思いを受け止めるメモリアルな空間であり、西地区は昨年ノーベル平和賞も決まり、80年間の取組や皆様の思いを落とし込んでいけるような空間にしていくことが平和公園（西地区）再整備を行うことの意義ではないかと感じた。

【事務局】

- ・ゾーニングについて、Dゾーンの市民総合プールと広場を分けた方がよいということか。

【委員】

- ・CゾーンとDゾーンが少しずれている部分がある。これはDゾーンの中に市民総合プールと広場を一緒にし、広場とCゾーンでシナジーが見えていないことが、分断している原因ではないかと考えている。
- ・Cゾーンが平和を感じる、思いを受け止める核であるとする、Dゾーンを新たにD'ゾーンとして市民総合プールとして整備し、Cゾーンを新たにC'ゾーンとして広場部分と既存のCゾーンをまとめて整備した方が、Cゾーンから周辺に平和が波及していく形にな

る。

- ・平和を感じる空間が C ゾーンや D ゾーンということではなく、平和というのはここを核にして波及していくという形の方が、平和を感じられる空間があるというゾーン分けの整備の仕方よりは、今回のこれまでの議論の経過や皆様の思いに沿った形になるのではないかと思う。

【委員】

- ・C ゾーンは、唯一平和に関する施設を置く場所であり、他のゾーンは「スポーツができることが平和」という解釈だと思う。
- ・C ゾーンに平和に関するメモリアル的なものを置く場合、エントランス機能という大きな方針より平和をつなげる空間を表に出した方がよいと思う。
- ・C ゾーンと D ゾーンの広場空間は、C ゾーンを含めて平和を感じるという空間、平和のエントランス部分と捉えてもよい。D ゾーンの半分は市民総合プールができるため、広場と C ゾーンのエントランスを含めて平和を迎え入れる場所という意味合いはよいと思う。

【委員】

- ・D ゾーンについて、市民総合プールが整備されると、広場を D ゾーンから切り離して C ゾーンとするか、C' ゾーンにするのか検討した方がよい。
- ・平和に関する言葉使いについては、長崎市の平和に関する担当部局と調整してほしい。

【委員】

- ・基本方針③「長崎の新たな玄関口としての機能強化」にも関連し、来訪者に安全・安心・快適に利用される、より有効的に魅力を発信して感じてもらうために、全体のネットワーク、車両動線、歩行者動線の考え方では、回遊性やストーリー性、理解が深まるような計画を検討すべきである。
- ・玄関口としての機能強化では、来訪者が平和を感じ交流する、体感する新たな玄関口としての機能という意味合いが必要だと思う。
- ・その上で、市民や国内外の来訪者のために、神戸市の事例のようなモニュメント的なものも必要だろう。また、案内板・誘導板や多言語への対応を前提として実施してほしい。
- ・C ゾーンは、平和公園（西地区）の基本方針の柱を感じられるような場所にしてほしい。

【委員】

- ・海外からの来訪者を含めて、平和を散策しながら体感したいという方が多いと思う。
- ・例えば、事例に記載されている大濠公園では、市民のボランティアで花壇をつくりそれぞれの団体の方が管理しているが、平和公園（西地区）でも市民の方に関わるようなきっかけをつくりながら平和を学んで発信していくことがよいと思う。

- ・また、花壇だけでなく浦上川の歴史を振り返りながら佇める場所や、稲佐山への眺望など、視点場となる所のポイントを有機的につなぎ合わせながらストーリーとして体験できるような、長崎の今の平和を学んでいく動線計画ができるとよい。
- ・外周園路も大濠公園の事例をみても、歩かれている方、走られる方、水辺を見ながら滞留される方などが上手く棲み分けられた動線のゾーニングになっているため、浦上川沿いのBゾーン、Eゾーンで読み解きながらやってほしい。
- ・駐車場に関して、駐車場からの動線が安全かつスムーズに進めるということも大切であるため、補足ほしい。

【事務局】

- ・駐車場からの安全な動線について、ラグビー・サッカー場の下に地下駐車場があり、A・BゾーンからDゾーンに行く場合、前面の道路を通らないようペデストリアンデッキなどを使って、安全に移動できるようにしている。

【委員】

- ・椎名委員が提案されたCゾーンとDゾーンの広場部分をまとめ、平和を発信するゾーンにする案に賛成する。
- ・Dゾーンの敷地内から原爆遺構・被爆瓦礫が出てきたと新聞やテレビで報道されていた。場所柄どこを掘ってもそのようなものが出てくことは理解しているが、資料保存を訴えている方がいることを大切に思った方がよいのではないかな。
- ・原爆遺構や被爆瓦礫の取り扱いの方針や活かす考えがあるかを確認したい。
- ・浦上川の地区は、原爆の被害が大きかったと同時に、長崎大水害の被害も大きい場所でもあるため、この場所の歴史が分かるような取組があるとよい。

【事務局】

- ・被爆遺構の件について、所管部局と話をしている。被爆遺構に関する基準に基づいて整理することになるが、何か出てきたらそれが被爆遺構ということではなく、被爆の実相を伝えるものであるかが判断材料になるため、出てきた場合は丁寧に確認していく。
- ・長崎大水害について、Eゾーンには平和公園と浦上川のつながりをゾーン別の整備方針で示している。平和と浦上川の関係というところに着目して整備をしようかと考えていたが、その部分をどのように反映していけばよいか今後整理したい。

【委員】

- ・ソフトボール場跡に、弓道場と庭球場の枠が設けてあるが、現在の庭球場は潰れるということが確定したのか。

【事務局】

- ・潰れるということが確定したわけではないが、現状の庭球場の7面の内、浦上川側の1面が長崎南北幹線道路に支障する部分がある。仮に支障する場合の復旧ということで記載している。今後、関係団体等と状況を確認しながら整備する。

【委員長】

- ・DゾーンとCゾーンが一体化する上で、資料4に書かれている外周園路との関係性について外周園路でCゾーンと分離されていることになっている。この広場ゾーンに平和の機能を持たせる場合には、この園路との関連性を考えなければいけない。

【委員】

- ・Dゾーンの外側に外周園路を設けるという考えの場合、市民総合プールの周りに園路を設けることになるが、延長が短くなるため、浦上川沿いや広場の部分にも絡んでくる形になる。ただし、歩行者動線上の混在が生じるため、平時と有事で走るときは走る、広場は有効活用、イベント時はショートカットという様々な対応案がある。
- ・広場と外周園路が重なることは、ゾーンの切り分けになるため、シナジーを考慮すると、平和伝承施設と平和を感じる広場は一つの動線になった方がよいと考えている。

【委員】

- ・最近、パラスポーツの関係で全国や世界から車椅子競技などの関係者が多く来訪され、平和の関心が高くなっていることから、障害の有無に関わらず平和に触れていただきたいと考えている。特にIゾーンからCゾーンのアクセス。
- ・今後、障害を持つ方も一緒になって協力させていただきたい。

【副委員長】

- ・検討委員会の議論を通じて平和について考えてきたが、被爆者団体の方からご意見をいただいたり、新たな動きとしてノーベル平和賞を受賞されたり、当初の議論と状況が変わっている。それらを踏まえた上で平和の取り扱いについて、改めて検討する必要がある。
- ・今回の検討委員会を踏まえて、3つの論点があると思う。
- ・1点目は、資料2の平和公園（西地区）の基本方針の文面である。「平和を発信する」や「平和の尊さを感じられる」などをどのように具体化するかということが非常に重要である。
- ・2点目はゾーンの考え方についてである。平和発信機能をCゾーンに導入することによって、Cゾーンは平和公園（西地区）のことを事前に学習するビジターセンター的な機能が備わっている。そのため、Cゾーンを核にして平和公園（西地区）を平和という考え方でつなげていくことが重要である。CゾーンとDゾーンに関しては、例えば「新たなつなが

りを象徴する」ところを、平和を入るのであれば、「新たなつながりと平和を象徴するエントランス空間」として、ここがビジターセンターの起点となって平和公園（西地区）全体を俯瞰するような性格を持たせた方がよい。Dゾーンに関してもCゾーンとまとめるのか、あるいは2つの空間をD'、D"のように分けるのか、Dゾーンの文言の中で、BゾーンとEゾーンの関係のように文言で連携というものを示していくのか、そのような処理が必要である。

- ・3点目は、動線計画についてである。ここの状況が分かるようにいくつかビューポイントを設定して動線で結ぶという観点で、一体的なイメージとして演出するような動線計画が必要である。また、動線計画では、長崎市歴史的風致維持向上計画においても現場から感じる歴史的風致として様々な計画的な位置づけをしているため、平和という観点から見た場合の関連計画の整合性にも配慮しながら考えていく必要がある。

【委員】

- ・動線について、平和公園のボランティアガイドさんの話では、平和公園（東地区）の中を見ることはあるが、平和の泉で水の話が出てくる時に、もしかすると平和公園（東地区）の中だけで終わっているのかもしれない。Iゾーン・Cゾーンを抜けて浦上川の方までガイドすることができ、そこに障害者の方も車椅子で行けるように考えると、より一体的に西地区と東地区が平和を象徴するようになってくるため、障害者への配慮や動線計画が重要になる。
- ・長崎南北幹線道路の高架下の使い方について、600m 走路あるいは外周園路として、水辺の浦上川沿いを眺めながらジョギングでき、車椅子でも行けるような、水を含めた平和を象徴する場所になるとよい。
- ・Bゾーンの多目的運動広場について、長崎スタジアムシティ前の若者広場も高架下の広場であるが、若者たちにアーバンスポーツに関するワークショップを4回ほど開催したが、周囲からのクレームが強くあり、あまり利用できず丸い芝生がある状態になっている。
- ・Bゾーンの多目的運動広場は、周囲に住民も少なく、普段日の目を浴びないスポーツやアンダーグラウンドでやっている人たちもののびのびとできる状態になり、それこそが平和な所になると思う。

【委員長】

- ・高架下のイメージについて意見があったが、整備主体は長崎県か。高架下の歩行空間等の空間をどの程度確保できているのか、イメージはできているのか。

【委員】

- ・詳細な図面は手元にないが、橋脚をどこかに置く必要がある。松山 IC ができるということで、この辺りに橋脚を密に打つ可能性もあるが、スケートボードの練習場はそれほど面

積が必要ない。松山 IC の分岐点で切れ目があり、少し雨がかりが悪いところがあるが、基本的には雨を気にせず色んなアクティビティが楽しめる場所になる可能性は高い。

【委員長】

- ・佐世保にも高架道路の高架下にスケートボードの練習場があり、若者がいつもスポーツをしている様子がある。

【委員】

- ・露出している被爆遺構について、D ゾーンの広場部分には寮や住宅が建っていてその遺構がある。戦前にスタンドがあった部分の基礎なども残っている。また、元々ここは戦後米軍の飛行場だった。ブルドーザーでならして、大橋球場まで一体にして飛行場になったということで、一度整備されているが、それでもまだ眠っているかもしれないということもあるため、そこが反対の理由だと思う。保存すべきものは保存し、説明を尽くして理解を得られるよう対応してほしい。
- ・今あるものの保存をどうするかという問題と、今後市民総合プールの整備により掘り返した時に様々なものがあると言われている。既に露出している所は使いながら、歴史の説明などに利用してほしい。

【委員長】

- ・先ほどの説明の中で元々被爆前も広場だったというエリアと、住宅が広がっていたエリアがあると発言されたが、資料 4 で言うと具体的にどの部分が該当するのか。

【委員】

- ・D ゾーンの市民総合プールがあるピンク色の部分は、戦前の陸上競技場だったので住宅は無かった。D ゾーン右側の広場部分に住宅が建っていて、戦後に弓道場あたりから大橋球場（ビッグ N）の所まで全て飛行場になった。その際に骨などを拾い集めた。

【委員】

- ・もし被爆遺構などが出てきたら判断基準に沿って残し、C ゾーンに活かしてほしい。

【事務局】

- ・現状の陸上競技場には、以前スタンドがあり、それを取り壊した。そして、今の 400mトラックと外周に 500m くらいがあり、その隣に 600m の外周園路がある。我々の地図と比べると、新聞で出てきたと報道されている所は、元々スタンドがあった場所から露出しているのではないかと思う。
- ・元々あった三菱の陸上競技場は、現状の庭球場と陸上競技場の 3 分の 2 くらいの所まで

である。新聞に載っていた所は、今の陸上競技場の端あたりで露出しているという記事だった。昔の三菱の陸上競技場の基礎ではないと判断している。

- ・ただし、工事の際に基礎が出てくる可能性は否定できない。出てきた場合は、文化財の学芸員の資格を持った者に確認させ、それが被爆の痕跡、被爆の状況を示すものと確認できれば、CゾーンやDゾーンの平和の伝承エリアに持っていくなど判断したい。
- ・長崎大水害について、平面配置イメージ図で浦上川を見ることができる施設を示している。浦上川の歴史を見せる際には、原爆や水害の歴史を併せて見せるべきだと思っている。

【委員】

- ・交通や駐車場の考え方を検討中だと思うが、松山 IC ができて、その流れていく先は小さな橋と路面電車の線路がある道路で、そこを通らなければ市街地に行けない状況である。
- ・駐車場について、地下駐車場は存置や C ゾーンは増加が見込まれる自動車交通に対応した交通機能の確保と記載されているが、一市民として心配していることは交通のことであるため、市民が納得できるよう丁寧な説明が必要である。
- ・浦上川は水を求めて亡くなられた方が大勢いることや長崎大水害のこともあり、プールで遊ぶことがいかに平和なことかと感じた。水で遊べる場所がこの場にできるということは平和の象徴ではないかと、今回携わらせていただいて感じたことである。

【事務局】

- ・交通については、事業主体である長崎県が対応している。事務局も心配している点であるため、早く検討を進めるようお願いしている。
- ・松山 IC ができて交通量が増えることは間違いなく、周辺の利便性は高まるが、渋滞によって使い勝手が悪くなるとプラスマイナスゼロになるため、長崎県と一緒に検討し、そのような状況についても検討が進んだ段階で情報発信を行うべきと思っている。

【委員】

- ・Cゾーンの平和伝承施設や瓦礫の展示などの直接的な平和を学ぶ場所も大事だと思うが、平和公園（西地区）は「水で遊べる平和」「スポーツができる平和」であることを見せているという広い解釈での平和を伝えたいと思った。
- ・平和公園（東地区）では、悲惨なところを伝えたり、原爆資料館で伝えたりするところもあるが、平和公園（西地区）では、瓦礫等をしっかり見せつつもその中で遊べる平和を表現しているというような、広いメッセージで示していけると、「だからここにあるんだ」というのが分かる。
- ・以前、佐藤委員から屋上緑化の案もあったが、市民総合プールは大きな面積でつくられるため、景観や稲佐山への眺望はしっかり配慮しつつ、見え方についても平和や緑を感じられるものになると、愛着が湧くのかなと感じた。

【委員長】

- ・長崎大水害の話題も今回初めて議論され、そのような視点も加えてほしい。
- ・資料の未熟な点については、今後事務局に詰めていただくことでお願いしたい。
- ・椎名委員からゾーニングの考え方について、修正の意見をいただき、概ね賛同していただいた。新たに整備される広場と C ゾーンに関連性を持たせて平和を見られるということは、新たな視点だったため展開していただきたい。
- ・古賀委員から地域の声として防犯の視点があった。
- ・川瀬委員からのバリアフリーの視点は、今後の実施段階で進めることを事務局から回答があった。

閉会

- 次回の再検討部会は3月中旬から下旬を予定。
- 事務局より閉会の挨拶